

---

# 東海風俗渡り歩き絵巻

メタかつ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

東海風俗渡り歩き絵巻

### 【Nコード】

N0897E

### 【作者名】

メタかつ

### 【あらすじ】

ノンフィクションです。すべて私の目線から書いているのでお店の批判ではないです。なお小説ではないです！どちらかというとブログかな？内容についての批判は出来れば遠慮してもらいたいです

## 第1話 F and J

今回初投稿は我がメタカツ初泡体験について書かせて貰います。  
ちなみにメタカツ風俗デビューは一宮のキャンパブ（ナースです）  
です。

それからヘルス、ビデオパブ、覗き部屋、ストリップを渡り歩いてきたのですが何故かソープだけは行く事が無く…いや、入りずらく…理由として貧乏のメタカツにはお金がない！さらにソープは敷居が高い！勝手に思い込んでました…真面目にスーツじゃないと入店出来ないと思ってた！先入観とは恐ろしいものですね

しかしソープに行きたい願望は日に日に強くなるばかり！泡姫と遊びたい願望は日に日に強くなるばかり！そして風俗デビューから1年ほど遂にメタカツはベスト・オブ・フック、ソープランドに行く事に意を決する！

前置きはこれぐらいにして初レポート行きます。今回、初泡体験は自宅からもつとも近いソープランドに行きました。（母校の近くで昔からあることは知っていた）

お店紹介

・F and J

・入浴料6000

・地下鉄志賀本通下車、東に歩き、セブイレブンを目印に南へ。  
それから5分程歩いた所にあります。

~~~~~

自宅から自転車で20分程、今回の目的地F and Jが見える。白を基調とした建物はとてもオシャレで一見ソープランドとは分らない程である。喫茶店と言えば喫茶店のような感じさえある。

さすがベスト・オブ・フゝゾク、ソーブランド！その辺の安っぽいヘルスとは一味も二味も違うなとメタカツは思った。

そしてメタカツは直ぐには入店せずお店の外観を一周する…大きさはそれほどでもないが裏にはボイラーが見える。

ボイラーを見つめメタカツは感嘆な声を上げる。

「遂に僕もベスト・オブ・フゝゾクソーブランドに来たんだな」

メタカツはソーブランドの前で何度薄ら笑いを浮かべたことか…周りの住民が指をさしても…犬に吠えられても気にしなかった…

これから起こりうるプレイ…アイドル級美女との濃厚なプレイ…たまらなく楽しみである。そして今にも爆発しそうな性欲を抑えつつメタカツは入店する。（入るときは後ろに壁があり外の人には見られにくい工夫ありましたよ）

「ご予約ありますか？」

入店後、店員の第一声である。メタカツは

「ありません」と言うホテルのキーのような番号札？のような物を渡される。ここで入浴料か総額を出したかは覚えてません！ごめんなさい！

メタカツは待合室に通されアルバムを待つ。

「さっすがにベスト・オブ・フゝゾクソーブランド！待合室も広いな」

待合室は黒を基調とし、豪華である。ソファアの座り心地も良く。この広さ錦のヘルスにはない！メタカツはタバコを手に取ると店員がやって来たアルバムを持ってきたのか？と思ったら店員は意外なことを口にする。

「お客様ご案内です」

「へ？」

メタカツは何が起きたのか分からない。アルバムは？選ばせてくれないの？いやいやただだんに店員が勘違いしているだけだろうと思った。メタカツは優しく店員に言った…とても紳士的に…

「ボーイさんまだアルバム見てないですよ」

「当店では入店時にアルバム指名したいと言わないとフリーのご案内になるんですけど…」

「はー！」

メタカツは絶句した。普通アルバム指名は出来るはずだ。これがソープランドのやり方？いやいやそんなことは…

ここで

「いいからアルバム出せ！」とゴネれば良かったのかも知れない…だが気の小さいメタカツにはそんな事は言えなかった。メタカツは黙って店員の指示に従う。この時はまだ希望があった。ここはベスト・オブ・フゝゾクソーブランドである…完全なるフリー宣言をしなくてもそれなりの姫がやってくると…と。

だがこれが地獄の始まりだったとは…

「……………」

「……………」

メタカツは絶句した。額からは脂汗がにじみ出る。メタカツの前には姫が立っているのだが…  
姫と呼べる代物ではない

顔は朝青龍…

体は朝青龍…

胸は朝青龍…

スリーサイズは朝青龍…

キングコングと言った表現が最も適しているのかも知れない…腕からは僅かにウブ毛が覗く…笑っているのかも分らない鋭い目つきである。メタカツは蛇に睨まれたカエル状態だと言うまでもないだろう。

風俗デビューから1年…heavenのソープ特集を見るたびに心が躍った。風俗にとってソープは別物最高級の姫、最高級のサービスを受ける事が出来る…そう思っていた。メタカツの数々の妄想が走馬灯のように蘇り、木っ端に崩れ去った瞬間である…だが逃げることは許されない…

メタカツはキングコングと共に部屋に入りベットに腰掛ける。とても大きなお部屋である。キングコングサイズと言ってもいいだろう。

だがこの状況にはどうでも良い。メタカツは恐怖で固まっている。メタカツの緊張を察したのかキングコングは優しく話しかけてきた

「お兄さん緊張してる？」

「は、はい…」

「可愛いねー私シャイな男性大好きー今日はいっぱいサービスしてあげる…」

最悪の展開になってしまった。普通は姫にこんな事を言われたら悪い気はしないだろうだが相手はキングコングである…  
思い出したくないのだがプレイの流れを書く…

まずキングコングはマットの準備。その間メタカツはお風呂で休憩。そしてマット開始…

気持ちよくもなくただ耐えるのみである。時折キングコングの重量で息苦しくなる。キスを迫られるが拒否！  
そして一回目のドッキング 不発

直ぐにベッドに移動しキングコングが

「攻めて欲しい」と言うが。

「疲れてるから」と言い拒否。キングコングを攻める勇氣などありません！メタカツはマグロに徹する。そして二度目のドッキング 不発

キングコングはごめんねと何度も言っていた。性格は悪くないのだが容姿が…時間がきて服着替えて終了。帰りにアルバムを見せて貰

ったが地雷多発地帯確定！

こうしてメタカツの悲しい泡初体験は終わった…ソープランドには悪魔が住む。そう感じた…もうソープランドに行くまいか…そう思った…だが金津園に突撃した時ベスト・オブ・フゝゾクソープランドの良さが分かるのだがそれは別のレポートにて…

メタカツはキングコングから逃亡した時始めて地面が固く冷たいと思った。人生それ程甘くないのだ。

#### 評価

- ・ 外観
- ・ 内装
- ・ 店員 （どこか威圧的態度！だめボーイです）・ 姫、容姿 （キングコングです）
- ・ 姫、サービス （頑張ってくれたと思いますが…）



## 第2話 宇都宮ヘルス

今回のレポートは宇都宮のヘルスについて紹介します。

・宇都宮ヘルス

・60分12000円ぐん

それはそれはむかしの出来事でございます…

当時（今もですが）メタカツは一人旅なるものが好きで。良く休みの日は車で遠出しておりました大阪、東京、東北…いつも目的もなく車を走らせたものです。

男の一人旅「風俗？…この図式はメタカツだけでしょうか？そう大抵飯を食って風俗行つてご帰宅――です。うん女性の方なら「目的もないのに旅行して何が楽しいねん？ガソリンの無駄やろ！」…と突っ込みを入れられるかも…男性の方は分かってくれるかな…一人旅…楽しくないスカ？

さあそろそろレポートいきましょうか。

今回、一人旅大好きメタカツは宇都宮に行ってきました！いつものようにご当地物を食べ…宇都宮と言えば…餃子！

そう宇都宮餃子ですよねもちろん食べました！はねつき鉄板餃子食べました！うまかった！『餃子の王将』よりマイウー 宇都宮の餃子ははねつきが常識何ですかね？詳しい人居たら教えてください。

さてさてニンニク臭くなったメタカツは携帯で風俗店を探します…一番近くのヘルス店がありますのでそこにします。（店名は忘れました）

お店は宇都宮の駅からかなり離れたところにあります。辺りは薄暗い街頭しかなく不気味な町？のような所にポツンとひとつのヘルス店がありました。外観は…

「ボロー！」…です。看板も微妙に斜めのような…気のせい？いやいや…

「……………」

「……………」

悩みました…入るべきか…だって怪しい感じ抜群ですもの！嫌々な予感が脳裏によぎります…

2、3回辺りをぐるぐる車で回りました。勿論爆音で！車は180SXですので…しかも改造車ですので…

そしてついにメタカツは入店を心に決め駐車場に車を止めます。数台止まっていたのを覚えています…

入店するとボーイさんが

「いらつしゃい。ご予約？」

「いいえ」

「うちはアルバムないけどどんな娘が好み？」

…と聞いてくるので。こう言いました。

「20代で細身の子」

この時点である程度の地雷は覚悟しております。アルバム指名できないお店で正直いい思い出はありません…

あつここでひとつ…

「細身の子」と言わなければデブが来ます！これは美人茶屋のマスターが言っていました。

待合室は…うーん。微妙良くもなく悪くもなく。でも何かアットホームな雰囲気を受けました。トイレも借りたのですが

「きたねえ！」

「掃除してねえ！」

この時点でお店の評価は急行落！トイレ汚い店は女の子の教育してない！これメタカツの理論…

トイレから戻り一服していると先程のボーイさんが来て参りました。

「お客様ご案内になります」

「……………」

もうメタカツ臨戦態勢に入ってます。どんなデブがこようがネズミ小僧がこようがゴジラがこようが驚きません！これも旅の思い出…と心に誓っております！ところが…

「……………」

「……………」

驚きました。メタカツの目の前には細身の（少しポチャですが）姫

が立っています。とってもカワイー！いま思つと石原さとみに似ていたかも…  
でもこの姫…

無表情…

笑わない…

挨拶なし…

サービス地雷の恐れがあります…まっ可愛いから最悪の状況は回避されましたが…姫の後ろをこそそと後をメタカツ。お部屋にはいると姫が勝手に服を脱いでるではありませんか？メタカツは風俗では会話も楽しみたい奴なので頑張りました。

「僕ー名古屋からきたんですよーお姉さんは宇都宮の出身？」

ジロリ…

睨んでいます…メタカツを睨んでいます！怖いです！姫は『早く服を脱げ！』と言っているのが手に取るようにわかります。この時点でサービス地雷決定です。

「……………」

「……………」

あつ！今無言でシャワー浴びてます！姫は無表情でメタカツジュニアを洗っております…

この先の事聞きたいですか？

ただ高速手コキでKOされただけです。しかも時間がたつぷり余ってます。なんで大金叩いてまでこんな気まずい思いしないといけないんだ！と思つたのは言うまでもありません。

余りの沈黙が苦しくて必死にメタカツは会話をしましたが姫は目を合わせてくれるだけで姫は喋ろうとしません。

「……………」

「……………」

この時、メタカツは脳裏にあることを思い付きました。メタカツは鞆から一枚の紙を取り出し、こんな事を書き姫に渡しました。そこにはこう書いてあります。

『ひょっとして耳が聞こえないんですか？』

「……………」

「……………」

「……………」

『はい…』

姫との会話はこれだけです。これ以上は何も喋らずただ時間がすぎるのを待ちました…これにてレポートは終わりです。

皆さんどう思いますか？風俗いって障害者が来たらどうしますか？チェンジしますか？女性の方でしょうか…障害者を雇っているこのヘルス…どう思いますか？

その時の私はね介護職についていました。一般人より障害者に対して理解があると思っていました…でもヘルスにいつて聴覚障害者とあった時…本当のことを言うとか不快でした…店に憤りを感じました。そして自己嫌悪になりました…

この姫がどおいう思いでこの仕事をしていたのかはわかりません…どの姫も様々な生き方、価値観を持っていて色々考えさせられることがあります…この姫程考えさせられる姫に会ったことはありません…

以上メタカツでした。

評価

・お店

外観

内装 (トイレ×)

ボーイ (可もなく不可もなく)

姫 (評価できず)

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0897e/>

---

東海風俗渡り歩き絵巻

2010年12月24日02時20分発行